

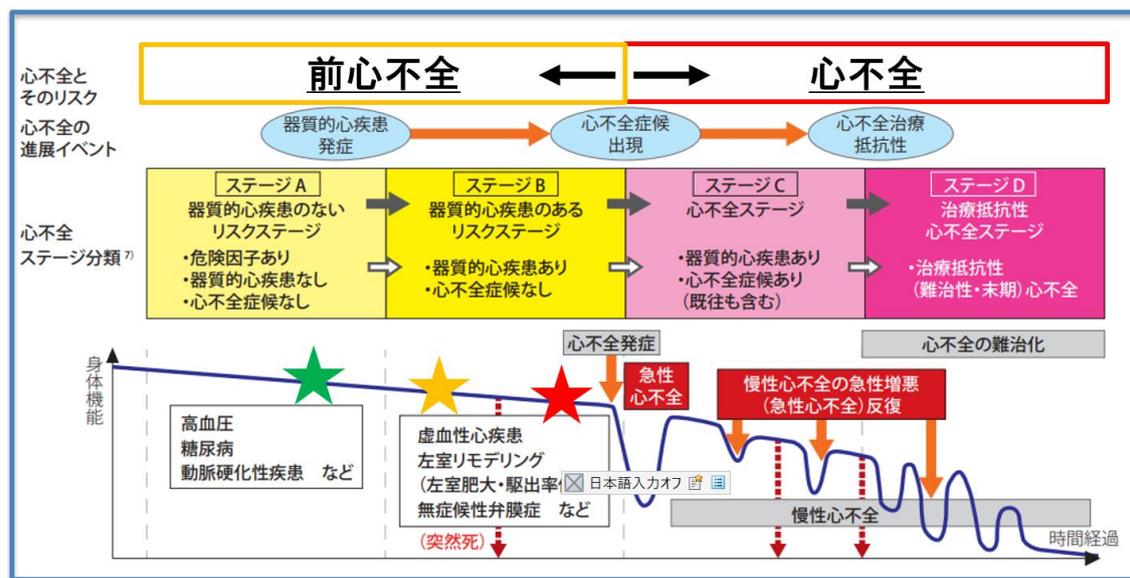
## 4-2) 心不全の早期スクリーニング(心臓検診)に関して

**心不全**とは、心臓が悪いために、息切れやむくみが起こり、だんだん悪くなり、生命を縮める病気です(日本循環器学会ガイドライン)。心不全を一度でも発症すると、皆様の大切な日常生活に支障が出るだけでなく、心不全入院や心臓突然死を来し、予後(寿命)にも影響が出てきます。実際に、心不全を発症した患者さんの予後は、悪性腫瘍(胃がん)の予後と同等もしくはそれ以上に悪いという報告があります。このように、心不全は一度発症すると大変厄介な病気です。では、心不全を発症しないためには、どうすれば良いのでしょうか？これには、“早期発見、早期介入”が重要です。

実は、心不全にも悪性腫瘍と同じくステージ分類があり、心臓のステージは高血圧や糖尿病、肥満、喫煙などの生活習慣病やその他の要因などにより、徐々に進展していきます(急性心筋梗塞や急性心筋炎などの特殊な病態を除きます)。そのため早期発見、早期介入をすることで、心不全の発症を抑えることが出来ます。ただ、心不全を発症する前段階(前心不全といいます)では、心不全症状(息切れやむくみなど)がないため、自分で気づくことは出来ません。ただ怖いことに、前心不全でも心臓はある程度痛んでいます。

そのため、まず重要なことは、血液検査や心エコー検査などであなたの現在の心臓の機能を正確に評価することです。そこから適切な介入(心不全の発症予防)がスタートします。当院循環器内科では、心臓の機能をより正確に評価するため、最新の心エコー機器を取り揃えています。

検査後には、今のあなたの心臓の機能はどの程度なのか、そして今後どうすれば元気で長生きが出来るのか、を医師と相談する外来を設けています。我々はこのような取り組みにより、将来心不全で苦しむ患者様が1人でも減ることを心から祈っています。



図：急性・慢性心不全診療ガイドライン 2017年改訂版(日本循環器学会)を一部改変

\*これは“心臓の一生”を示した図です。今のあなたの立ち位置はどこでしょうか(緑星?黄星?赤星?)? 甲南医療センター循環器内科では、最新の心エコー機器を用いて、心臓の状態を詳しく検査し、皆様が元気で長生き出来るよう相談できる外来を設けています。

開業医の先生方へ

ご紹介シート (High-risk stageB 心不全患者 screening 目的)

※対象：前心不全状態で、比較のお元気な患者様(臨床虚弱尺度1から4まで)